We create chemistry

安全データシート

BASF 安全データシート
日付 / 改訂: 26.03.2025 バージョン: 6.0
製品: **Linalool / リナロール**

(30034999/SDS_GEN_JP/JA)
印刷日: 03.11.2026

1. 化学品及び会社情報

品名:
Linalool
リナロール

用途: 化学品, 界面活性剤用化合物, 化粧品及び口腔内手入れ用薬剤, 香料物質

供給者の会社情報、住所及び電話番号:
BASFジャパン株式会社
東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号
OVOL 日本橋ビル 3階
電話番号: +81-3-5290-3000
Eメールアドレス: Japan-SDS-Info@basf.com

緊急連絡先:
電話番号: 03-6634-2245
+49 180 2273-112 (International emergency number)

2. 危険有害性の要約

【化学品のＧＨＳ分類】:
引火性液体: 区分4
急性毒性: 区分5 (経口)
皮膚腐食性／刺激性: 区分2
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性: 区分2A
皮膚感作性: 区分1B
水生環境有害性　短期(急性): 区分3

【ＧＨＳラベル要素】:

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:
警告

危険有害性情報:

H227	可燃性液体。
H319	強い眼刺激。
H315	皮膚刺激。
H303	飲み込むと有害のおそれ。
H317	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
H402	水生生物に有害。

注意書き（安全対策）:

P280	保護手袋と保護眼鏡または保護面を着用すること。
P261	ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
P280	保護眼鏡を着用すること。
P210	熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P273	環境への放出を避けること。
P272	汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P264	取扱い後は汚染された体の部分をよく洗うこと。

注意書き（応急措置）:

P305 + P351 + P338	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P302 + P352	皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
P333 + P313	皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
P301 + P312	飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
P332 + P313	皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
P362 + P364	汚染された衣類を脱ぎ、そして再使用する場合には洗濯をすること。
P337 + P313	眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
P370 + P378	火災の場合：消火するために耐アルコール泡、二酸化炭素、粉末消化剤あるいは水噴霧を使用すること。

注意書き（保管）:

P403	換気の良い場所で保管すること。

注意書き（廃棄）:

P501	適切に分別した内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に廃棄を委託すること。

ＧＨＳ分類に関係しない又は ＧＨＳで扱われない他の危険有害性:
この項に、有効な情報の記載がある場合、それは、GHS分類の結果ではなく、物質もしくは混合物の総合的な危険性に寄与する可能性があるGHS分類以外の危険性に関するものである。

3. 組成及び成分情報

化学特性

化学物質・混合物の区別: 単一製品

3,7-ジメチル-1,6-オクタジエン-3-オール
CAS番号: 78-70-6
化審法: (2)-249
労働安全衛生法: (2)-249

ＧＨＳ分類に寄与する成分

3,7-ジメチル-1,6-オクタジエン-3-オール

含有量 (W/W): > 90 % - <= 100 %	引火性液体: 区分 4
CAS番号: 78-70-6	急性毒性: 区分 5 (経口)
化審法: (2)-249	皮膚腐食性／刺激性: 区分 2
労働安全衛生法: (2)-249	眼に対する重篤な損傷／眼刺激性: 区分 2A
	皮膚感作性: 区分 1B
	水生環境有害性　短期(急性): 区分 3

D,L-α-トコフェロール

含有量 (W/W): > 0 % - < 0.1 %	皮膚感作性: 区分 1B
CAS番号: 10191-41-0	
化審法: (9)-864	
労働安全衛生法: (9)-864	

化学式: C10 H18 O

4. 応急措置

[応急措置をする者の保護に必要な注意事項]:
汚れた衣服は取り替える。

[吸入した場合]:
安静にし、新鮮な空気の場所に移動させ、医師の診察を受けること。

[皮膚に付着した場合]:
石鹸と水で完全に洗い流すこと。

[眼に入った場合]:
直ちにまぶたを開き流水で15分以上洗い流した後、眼科医の診察を受ける。

[飲み込んだ場合]:
直ちに口をすすぎ、200-300mlの水を飲み、医者の診察を受ける。

[医師に対する特別な注意事項]:
症状: 情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2章で利用可能なGHSラベルのフレーズ及び11章で利用可能な毒性評価に含まれる。
処置: 症状に応じて処置(洗浄・機能回復)を講じる。特に解毒剤なし。

5. 火災時の措置

[適切な消火剤]:
噴霧水, 二酸化炭素, 粉末, 耐アルコール性泡

[使ってはならない消火剤]:
棒状放水

[火災時の特有の危険有害性]:
炭素酸化物, 有害な蒸気
火災の場合、前述の物質／物質グループが放出される可能性がある。 可燃性液体

[消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置]:
自給式呼吸器を着用のこと。

[追加情報]:
汚染された消火用水を別途回収すること。下水または廃水処理施設に流さないこと。 汚染された消火廃水は法令に従って適切に処分する。 容器を噴霧水で冷却する。

6. 漏出時の措置

[人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置]:
保護具を着用する。保護具に関する情報については安全データシート第8章を参照のこと。十分な換気を確保すること。蒸気／スプレーを吸入しないこと。皮膚、眼、衣服への接触を避ける。

[環境に対する注意事項]:
排水溝等に流出させない。

[封じ込め及び浄化の方法及び機材]:
大量の場合: せき止める。 泡（アルコール耐性泡）でカバーする。 ポンプで容器に回収する。
残渣の場合: 吸着剤（例：砂、シリカゲル、酸性バインダー、一般用途のバインダー、おが屑）で吸着させる。
法令に従って吸着剤を廃棄すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

[取扱い]

作業場の換気を十分に行う。 適切な保護衣および眼/顔面用の保護具を着用すること。 皮膚、眼、衣服への接触を避ける。 容器は密閉して保管する。 この製品は、刺激の原因になる可能性がある； 接触の都度に手を洗うこと。

安全取扱注意事項:
本品は可燃性である。 あらゆる着火源（熱、スパーク、裸火など）を近づけない。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 火に暴露された場合は、噴霧水によって容器を冷却する。 蒸気は空気と混合して爆発性の混合物を形成することがある。

[保管]

臭気敏感物質：臭気発生物質から隔離する。
保管条件に関する追加情報: 容器は密閉して、乾燥した涼しい場所に保管する。 容器の物理的損傷を避けること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

物質固有の職業曝露限界値は知られていない。

【保護具】

[呼吸用保護具]:
高濃度に対して、または長時間有効な適切な呼吸保護具： 有機化合物（沸点65℃以上)のガス／蒸気用ガスフィルターEN 14387 A型

[手の保護具]:
長時間の直接接触でも問題ない素材（保護指針6に準ずることが望ましい。EN ISO 374-1によると、透過時間は480分以上であること。）：
ブチルゴム（ブチル）、肉厚0.7 mm
ニトリルゴム（NBR)、肉厚0.4 mm
フッ素ゴム（FKM)、肉厚0.7 mm
短期間の接触に適した素材（保護指針2に準ずることが望ましい。EN ISO 374-1で、透過時間は30分以上であること。）
クロロプレンゴム（CR)、肉厚0.5 mm

補足：仕様は、試験、文献データ及び手袋製造業者の情報に基づくもの、あるいは類似の物質から類推されたものである。条件が多いため（温度など）、耐薬品性保護手袋の実際の使用時間は試験で別途得られた物質透過時間よりもかなり短いと考えなければならない。
種類が多岐にわたるため、製造業者が指示した方法を遵守すること。

[眼の保護具]:
サイドシールド付き安全眼鏡(フレームゴーグル)（例 EN 166）

[皮膚及び身体の保護具]:
作業および予想暴露量に基づいて、保護具を選択すること。前掛け、保護靴、耐薬品性保護衣等（飛散の場合は、EN 14605に従い、粉塵の場合は、EN ISO 13982に従う。）。

[一般的な安全及び衛生対策]:
労働安全衛生に関する実施基準に従い、取り扱うこと。 所定の保護具に加えて、上下一体型作業衣の着用が必要である。 皮膚、眼、衣服への接触を避ける。 作業場では飲食や喫煙をしない。 休憩前とシフトの終わりに手や顔を洗うこと。 作業服は、他の物と分けて保管すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態:	液体	
色:	無色	
臭い:	花のような香り	
臭いのしきい値:	< 100 ppm	
pH:	4.5 (1.45 g/l, 25 ° C)	
融点:	< -100 ° C	(OECDテストガイドライン 102)
ガラス転移温度:	-99 ° C	
沸点:	196.3 ° C (1,013.25 hPa)	(OECDテストガイドライン 103)
引火点:	77.2 ° C	(ISO 2719, 密閉式)
蒸発率:	値は、ヘンリー則定数もしくは、蒸気圧から類推することができる。	
可燃性 (固体/ガス):	可燃性液体。	(引火点から導きだした)
爆発下限界:	分類と表示に関連しない液体に関するものである。, 爆発下限界は、引火点より5-15℃低い可能性がある。	
爆発上限界:	分類と表示に関連しない液体に関するものである。	
自然発火温度:	260 ° C	(EU指令 92/69/EEC, A.15)

熱分解:	約 >= 260 ° C	(DSC (DIN 51007))
自己発火性:	構造特性から、この製品は、自己発火性に分類されない。	試験の種類: 室温において自然発生する自己発火性。
自己発熱性:	該当しない、製品は液体である。	
爆発危険有害事項:	爆発性なし。	
火災を引き起こす性質:	構造的特長に基づき、製品は酸化剤に分類されない。	
蒸気圧:	0.3 hPa (20 ° C) 動的	(測定)
密度:	0.862 g/cm3 (20 ° C, 1,013 hPa)	(比重瓶)
相対密度:	0.862 (20 ° C)	
相対ガス密度（空気）:	> 1 (20 ° C) 空気より重い。	(算出)
水に対する溶解性:	1.45 g/l (25 ° C, 1,013 hPa)	
溶解度（定性的） 溶媒:	有機溶媒 可溶	
n - オクタノール/水分配係数（log Pow）:	2.7 (25 ° C)	(OECDテストガイドライン 107)
吸着/水-土壌:	KOC: 56.32; log KOC: 1.75	(算出)
表面張力:	化学構造に基づき、表面活性はないと考えられる。	
粘度:	4.46 mPa.s (25 ° C) 文献データ	
動粘性率:	約 5.19 mm2/s (25 ° C)	(calculated（動粘度から）)
モル質量:	154.25 g/mol	

<u>粒子特性</u>

粒度分布:	物質/製品は固体や粒状以外の形状で流通もしくは使用されない。 -

10. 安定性及び反応性

[避けるべき条件]:
あらゆる着火源（熱、スパーク、裸火など）を近づけない。 製品安全データシートの第７項の取り扱い及び保管上の注意を参照すること。

熱分解: 約 >= 260 ° C (DSC (DIN 51007))

[混触危険物質]:
酸

金属の腐食: 金属に対する腐食性はないと予測される。

[危険有害な分解生成物]:
酸の影響を受けて、熱が発生する。

[危険分解物]:
通常の取扱い条件下で危険分解物なし。

化学安定性:
製品は取扱説明書に従って貯蔵すれば安定である。

反応性:
指示通りの貯蔵と取扱い条件下では有害な反応は起こさない。

11. 有害性情報

ばく露経路

急性経口毒性

実験または計算によるデータ:
LD50（半数致死量）ラット (経口): 2,790 mg/kg
文献データ

急性皮膚毒性

LD50（半数致死量） ウサギ (経皮): 5,610 mg/kg
文献データ

急性毒性の評価

単回の摂取であれば、低毒性である。 単回の皮膚付着であれば、実質上毒性はなし。

症状

情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2章で利用可能なGHSラベルのフレーズ及び11章で利用可能な毒性評価に含まれる。

刺激性

刺激性作用の評価:
皮膚接触により刺激を生じる。 眼に入ると、刺激する。

実験または計算によるデータ:
皮膚腐食性／刺激性 ウサギ: 刺激性あり。 (OECDテストガイドライン404)
文献データ

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 ウサギ: 刺激性あり。 (OECDテストガイドライン405)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

感作性の評価:
動物実験で感作性が認められた。

実験または計算によるデータ:
マウスの局所リンパ節試験（LLNA）マウス: 皮膚感作 (OECDテストガイドライン 429)

生殖細胞変異原性

変異原性の評価:
微生物、哺乳動物培養細胞及び哺乳動物を用いた多くの変異原性試験の結果が公表されている。入手可能な情報を全て考慮した結果、この物質が変異原性であると言う証拠はない。

発がん性

発がん性の評価:
評価できるすべての情報は、発がん効果を示す証拠はない。

生殖毒性

生殖毒性の評価:
動物実験の結果から、生殖能力低下は認められなかった。

発生毒性

催奇形性の評価:
動物実験において、母体毒性を示さない濃度では生殖能力の低下は認められなかった。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

入手可能なデータに基づくと、分類基準に該当しない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

反復投与毒性の評価:
反復曝露の後、オスのラットの腎臓への影響が検出された。これらの影響は、オスのラットに特有であり、人に関係ないことが知られている。

誤えん有害性

データなし。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生生物に対する毒性の評価:
水生生物に対し急性の有害性がある。 廃水処理施設に低濃度で適切に流入すれば、活性汚泥の分解活性を阻害しない。

魚類に対する毒性:
LC50（半数致死濃度） (96 h) 27.8 mg/l, ニジマス（学名 : Oncorhynchus mykiss） (OECDテストガイドライン 203, 止水式)
毒性に関する記述は、実測濃度による。

水生無脊椎動物:
EC50 (48 h) 59 mg/l, オオミジンコ（学名 : Daphnia magna） (OECDテストガイドライン 202-1, 止水式)

水生植物:
EC50 (72 h) 156.6 mg/l (成長率), 緑藻（学名 : Desmodesmus subspicatus） (DIN 38412 第9部, 止水式)

微生物/活性汚泥への影響:
EC10（10%影響濃度） (3 h) > 100 mg/l, (OECDテストガイドライン 209, 止水式)

魚類に対する慢性毒性:
試験の実施は、必要ない。

水生無脊椎動物に対する慢性毒性:
試験の実施は、必要ない。

陸生生物に対する毒性の評価:
試験は、科学的に正当化されていない。

移動性

環境区分間の輸送評価:
水面から大気中に揮発しない。
土壌の固相には吸着しないと考えられる。

残留性・分解性

除去情報:
60 - 70 % ThOD（theoretical oxygen demand : 理論的酸素要求量）に対するBOD (28 日) (OECDテストガイドライン301D、EEC 92/69, C.4-E) (好気性, 市営汚水処理施設廃水)

水中での安定性評価:
試験の実施は、必要ない。

生体蓄積性

生体蓄積性の可能性評価:
n-オクタノール／水の分配係数（log Pow)より、生体への濃縮性はないと考えられる。

13. 廃棄上の注意

国のまたは地方の法定事項に従うこと。

14. 輸送上の注意

国際陸上輸送:

	輸送規則では危険有害性物質に分類されていない
国連番号もしくはID番号	非該当
品名（国連輸送名）:	非該当
国連分類（輸送における危険有害性クラス）:	非該当
容器等級:	非該当
環境有害性:	非該当
使用者への特別注意事項	知見なし

海上輸送
IMDG
輸送規則では危険有害性物質に分類されていない

国連番号もしくはID番号:	非該当
品名（国連輸送名）:	非該当
国連分類（輸送における危険有害性クラス）:	非該当
容器等級:	非該当
環境有害性:	非該当 海洋汚染物質: 非該当
使用者への特別注意事項	知見なし

Sea transport
IMDG
Not classified as a dangerous good under transport regulations

UN number or ID number:	Not applicable
UN proper shipping name:	Not applicable
Transport hazard class(es):	Not applicable
Packing group:	Not applicable
Environmental hazards:	Not applicable Marine pollutant: no
Special precautions for user	None known

航空輸送
IATA/ICAO
輸送規則では危険有害性物質に分類されていない

Air transport
IATA/ICAO
Not classified as a dangerous good under transport regulations

国連番号もしくはID番号:	非該当	UN number or ID number:	Not applicable
品名（国連輸送名）:	非該当	UN proper shipping name:	Not applicable
国連分類（輸送における危険有害性クラス）:	非該当	Transport hazard class(es):	Not applicable
容器等級:	非該当	Packing group:	Not applicable
環境有害性:	非該当	Environmental hazards:	Not applicable
使用者への特別注意事項	知見なし	Special precautions for user	None known

IMO機器によるバルクの海上輸送

海上のバルク輸送は目的としない。
指針番号: 128

Maritime transport in bulk according to IMO instruments

Maritime transport in bulk is not intended.

国内輸送規制はSDSの15章を参照のこと。

15. 適用法令

消防法: 第4類, 第3石油類, 非水溶性

3,7-ジメチル-1,6-オクタジエン-3-オール
労働安全衛生法
通知対象物

3,7-ジメチル-1,6-オクタジエン-3-オール
労働安全衛生法
表示対象物

消防法
消防法　第4類　引火性液体
03 2004
指定数量： 2000 リットル
III

皮膚等障害化学物質等(労働安全衛生規則第594条の2)
3,7-ジメチル-1,6-オクタジエン-3-オール

その他の規則

もしも、このＳＤＳの他の章に記載されていない法的情報がある場合には、この章に記載されます。

16. その他の情報

他の用途については、製造業者に問い合わせること。対応する職場作業員保護措置に従うこと。

【JIS Z 7252/7253： 2019準拠】 本SDSに記載されていない必要項目は、情報がないことを示す。

本SDSにおいて労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます。

左余白の縦線は前バージョンからの改訂部分を示す。

本安全データシートに含まれるデータは、当社の最新の知識及び経験に基づいて製品を安全性基準の観点からのみ説明するものであり、製品の特性（製品規格）を説明するものではありません。また、当該製品が特定の目的に適した性能・特性を有しているか否かを判断するためのものでもありません。本製品の使用者は自己の責任において製品に関わる特許等の所有権を尊重し現行の法律及び規則を遵守して下さい。